# 関西に磨きをかける

今回の鼎談は、平成20年10月に1か月限定で試行された、大阪版川床「北浜テラス」のなかの1軒「そば切りてる坊」で行われました（10月14日実施）。

寺田千代乃 × 藤岡幸夫 × 堀井良殷

寺田千代乃　関西経済連合会副会長
藤岡幸夫　関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者
堀井良殷　大阪21世協会理事長

**かつてイギリスのチャーチル首相は、「お金を失うことは小さく失うこと、しかし勇気を失うことはすべてを失うことだ」といったという。大阪・関西においても、地盤沈下だと自信をなくし、自らの可能性を閉ざしてしまってはすべてを失うことになる。こういう時こそ自らのあるべき姿を信じて磨きをかけ、魅力ある都市像を示すべきである。そのためには何を考え、どう行動すればいいのか。関西経済界・音楽界の第一線で文化振興に尽しておられるお二人に聞いた。**

## 民の力

**堀井**　アメリカに端を発した金融不安で、世界経済が混乱しています。大阪・関西もその波を受けて不景気感がつのっています。とはいえ文化振興にブレーキをかけてはならないと思いますが、寺田さんはこの状況をどう見ておられますか。

**寺田**　たしかに経済界をとりまく環境は非常に厳しいです。だからといってさまざまなマーケットがなくなるわけではありません。景気は「気」の持ちようだともいわれます。数々のピンチをチャンスに転じてきた、関西経済人のマインドが大切です。これは文化振興も同じです。

**堀井**　寺田さんは「美しい大阪をつくる百万本のバラの会」の実行委員長でもあります。ここから改修中の中之島バラ園が見渡せますが、こうした風景を磨くことで、まちはとても魅力的になりますね。

**寺田**　大阪には歴史的文化や自然など、ブラッシュアップすることで、とても魅力的になるものがたくさんあります。また、それをするにあたっては“民”の力がとても大きい。「百万本のバラの会」は一人百円の寄付で百万人の参加を呼びかけています。バラは春と秋の2回楽しめますから、それで中之島を囲めば水辺の風景が一層美しくなるでしょう。

**堀井**　海外経験の豊富な藤岡さんは、外国の水辺の風景にどのような印象をもっておられますか。

**藤岡**　ロンドンのテムズ川、ドイツのライン川、チェコのモルダウ川など、まちの中心部に川が流れていて、それを市民が愛して使って